

ジェイアールバス東北本部

第23号 2020年3月24日

〒983-0852 仙台市宮城野区榴岡1-4-3 JR東労組仙台地方本部内
NTT:022-297-0155 JR:031-3981~3983
発責：佐藤 秀一 編集：情宣部

「2020年度夏季ダイヤに関する申し入れ」 について団体交渉を行う!

ジェイアールバス東北本部申第5号「2020年度夏季ダイヤに関する申し入れ」について、団体交渉を行いました。主な議論経過は以下の通りです。

- (組合) 2019年10月1日から2020年1月31日の間において協約・協定、労働基準法上の問題点を明らかにするとともに、問題が発生した原因を明らかにすること。
- (会社) 昨年の10月、11月に青森支店において2件の45時間超過が発生した。繁忙期の十和田湖輸送で担当者が続行便対応等で忙しかった事が原因である。事前に把握することが出来なかった。
- (組合) これまでも、担当者一人に任せきりになっている職場環境が問題であり、会社として管理体制を強化していくことを確認してきたが、守られていない。また、事前に把握した場合は協議を行うこと。
- (会社) 現場への指導を徹底するとともに、会社としてもチェック体制を強化し、今後このような事が無いようにしていく。45時間超過となる場合は事前協議を行う。
- (組合) 何度も点呼執行者が休憩を取れないことに関して議論してきたが、改善されている職場がある一方、盛岡支店では未だに改善されていない。作業ダイヤすら見直しが行われていない状況である。早急に改善すること。
- (会社) 2人体制に出来れば良いが、現状ではなかなか難しい。改善していこうとは考えている。作業ダイヤについては、現場長と相談しながら検討する。
- (組合) 要員不足が深刻な状況である。特に白沢事業所は、休日出勤が多く発生しており、不満を持っている社員も多い。このままでは退職を考える社員も出てくる。
- (会社) 随時、契約社員の採用を行っているが、退職者も多いのが現状である。白沢事業所については、勤務躁配等も含めて調べていく。
- (組合) スワロー号の減便についてだが、乗客の利便性と減便に伴う乗客人員の減少を考慮するべきである。また、職場で働く社員も将来に対して不安を感じている。
- (会社) 利便性については、他の交通機関もあり何ら問題はない。二戸営業所は、補助金を除けば1億円くらいの赤字である。会社の利益をここにつぎ込んでいいものか考えなければならない。平均乗車が5~6人であり非常に厳しい状況である。しかし、全て廃止するわけにはいかないので、減便して様子を見ていく。
- (組合) バス東北だけではなく地方路線は、何処も人口減少によって存続が厳しい状況である。ただ、減便・廃止ではなく、いかに利用者を増やすか労使で議論していくことも必要である。今回の減便は職場の組合員が納得していない。会社として説明が足りないのではないのか。
- (会社) 確かに会社としての説明不足もあったと思う。現場長からしっかりと社員に対して説明を行う。
- (組合) 青森支店、十和田湖輸送において、乗り残し等について何度も議論し、会社として続行便等で解決に向け取り組んでおり、少しずつ改善しているが、2月に乗り残しが発生し現場の対応に問題があったとの報告が上がっている。これまでの議論が、職場に周知されていない。また、昨年の夏季ダイヤにおいて青森駅11番線の同時発車について改善してきたが、冬季ダイヤでまた元に戻した理由を明らかにすること。
- (会社) 現場に確認し、乗り残し等が無い様にしていく。同時発車の件に関しては、調査し後日報告する。

**各分会で議論を展開し、問題解決に向け
職場からたたかいをつくり出そう!!**